

令和4年7月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和4年7月28日（木） 午後1時30分～午後2時35分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階）

3. 出席者

教育長	織田 恭淳
委員	前田 康一（教育長職務代理者）
委員	廣田 光前
委員	中村 亜紀
委員	松宮 誠也

4. 欠席者

委員	宮本 麻里
----	-------

5. 出席事務局職員

教育部長	内藤正晴
次長	堤幹広
次長	東野裕賢
管理監（未来子ども局設置準備担当）	
兼幼児課長	中島尚子
教育総務課長	服部稔
教育改革推進室長	中北隆尚
教育指導課長	笥敏弘
すこやか教育推進課長	山岡万裕
教育センター所長	橋憲照
教育指導課主幹	北澤直樹
教育総務課長代理	前嶋美和
教育総務課主幹	川瀬奈津代

6. 傍聴者

なし

II. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

日程第 1 会議録署名委員指名

日程第 2 会議録の承認

日程第 3 教育長の報告

日程第 4 議案審議

議案第 25号 臨時代理の承認について

議案第 26号 長浜市 A L T（外国語指導助手）民間派遣業務プロポーザル選定委員会設置要綱の制定について

日程第 5 協議・報告事項

（1）長浜市民間認可保育所及び認定こども園副食費補助金（新型コロナウイルス対策事業分）交付要綱の制定について

（2）一麦保育園移管先法人の募集について

（3）令和 4 年長浜市議会 6 月定例会一般質問答弁要旨について

日程第 6 その他

3. 閉 会

III. 議事の概要

1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

廣田委員、前田委員

3. 会議録の承認

6 月定例会

特に指摘事項はなく、6 月定例会の会議録は承認された。

4. 教育長の報告

教育長：7 月 20 日に、無事に 1 学期の終業式を終えることができました。何とか 1 学期を乗り越えられたと思っておりますが、新型コロナウイルスの第 7 波の影響もあり、まだまだ予断を許さない状況です。

子どもたちの命を守るということから、子どもたちに様々な体験をさせるため、それぞれの小・中・義務教育学校の水泳授業の中で、主に着衣水泳に取り組んでいただきました。一部の学校では、水難学会の方に講師に来ていただき、水の中での浮き方や服を着て泳ぐことの大変さなど、いろいろな体験や話をしていただき、子どもたちや先生方も含めて非常に勉強になったと聞いております。この夏

休みには、小学校の体育主任会で、水難学会の方に先生方への研修をしていただき、その内容を各学校において共有していただきます。子どもたちの命を最優先に、学校・園経営の中で考えていただくための取組として紹介させていただきました。今後も、そういった面につきまして、皆さんから忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

5. 議案審議

議案第 25 号 臨時代理の承認について

教育長は事務局に説明を求め、関係所属長から資料に基づき説明があった。特に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり承認された。

議案第 26 号 長浜市 A L T（外国語指導助手）民間派遣業務プロポーザル選定委員会設置要綱の制定について

教育長は事務局に説明を求め、教育指導課長から資料に基づき説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

廣田委員：A L Tはこういった言葉の略ですか。

教育指導課主幹：A L Tは、アシスタント・ランゲージ・ティーチャーの略です。

教育長：A L Tはどのような仕事をされていますか。

教育指導課主幹：業務内容としては、小学校や中学校における外国語科及び外国語活動において、担任の補助としてティーム・ティーチングを行っています。A L Tは、授業の展開を考える中で、そのアイデアを担任に伝えたり、教材の作成を行い、授業の中でロールモデルとして学習する英語の表現を担任と一緒に見せたり、よりネイティブな発音を子どもたちに聞かせるといったことを授業中に行っています。また、授業の中で、子どもたちから質問などが出てきた場合には、担任と一緒にその質問に対して答えるといったことも行っています。

民間派遣のメリットとしては、派遣されるA L Tの条件を細かく指定することができます。現在も、毎月、会社によるA L Tへの研修会が実施されており、会社専属の英語トレーナーが学校を訪問し、授業を見て直接指導を行うといった指導体制も確立されています。また、緊急時等も迅速に対応していただいているので、学校や教育委員会としても安心して任せているといった状況です。

廣田委員：A L Tが教えているのは、英語だけですか。ほかの言葉も教えていますか。

教育指導課主幹：現在、長浜市では英語のみとなります。

前田委員：日本人の英語教師とネイティブの方との割合はどのぐらいですか。

教育指導課主幹：現在、ネイティブの方が11人、日本人が10人となっています。

前田委員：ネイティブの人が全小学校や中学校に常駐するということではなく、何校かを掛け持ちしているということですか。

教育指導課主幹：そうです。

前田委員：全学校に、配置できているのですか。

教育指導課主幹：現在、計画的に人員配置をしており、小学校及び義務教育学校の前期課程の1年生から4年生は隔週で1時間、中学校については毎週1時間ごとに配置しております。また、小学校の5・6年生については全て、日本人教師が週1時間のチーム・ティーチングを行っているので、全ての学校に平等に配置している状況です。

前田委員：ネイティブの方が来られないこともあるということですか。

教育指導課主幹：はい。そういった場合は担任が1人で英語担当を行っているという状況です。

教育長：小学校の英語の授業は、週に何時間ありますか。

教育指導課主幹：1年生から4年生が週1時間、5・6年生が週2時間です。

松宮委員：本質的な話になってきますが、外国人のネイティブの方が週1時間関わることで効果があるのでしょうか。

教育指導課主幹：効果としましては、国で英語教育状況調査を行われており、1か月ほど前に令和3年度の記録が新聞報道されておりました。現状としては、中学校修了時における英語検定3級の取得率が長浜市は26.7%、全国が27.2%となっており、全国を少し下回っております。しかしながら、令和元年度の記録ですと、長浜市のほうが1%ほど高い状況となっております。

A L Tを配置することで、即効的に学力が伸びるということは、この数値から見るとあるとは言えないかもしれませんが、子どもたちは、特に小学校については英語や外国語教育は、「英語に親しむ」、「楽しく英語に触れる」、もしくは「将来、英語を使って働いてみたい」というような興味を持たせるといったところを優先的に指導しております。

A L Tが配置されることで、子どもたちの学力向上はもちろんですが、授業中だけではなく学校生活の中に日常的にネイティブの先生がいることで、日頃から英語の挨拶ができます。また、長浜市の子供たちはネイティブの人と話す機会が多く、外国の方と話すときにも物おじせずに話せます。そういった意味では、A L Tがもたらす効果というものは、一定あるのではないかと考えています。

松宮委員：ぜひこれからもやってもらえればと思います。ただし、ネイティブでなければ駄目というわけではなく、英語ができれば、A L Tの方も色々な国の方がおられても良いのではないかと思います。おそらく、ネイティブの方と英語を学んだ方では発音が違うかもしれませんが、子どもたちも無理にネイティブに合わせていく必要もなく、英語が理解できてコミュニケーションが取れたら十分だと思います。そういった面では、色々な国の方と触れ合えるという意味でも、物おじしないという目的にも沿うと思いますし、子どもたちが英語にたくさん触れてコミュニケーションが取れるような人間に育っていくということであれば、そういった視点でも良いのではないかと思います。

中村委員：20年ほど前ですが、長浜市は先進的にとても英語教育に力を入れておら

れたように思います。神照小学校は、学校としての規模が大きかったので、常に2人のALTの方が学校におられました。いつでも職員室にALTの方がいるので、子どもたちもすごく親しくできたので、一定の効果はあったと思っています。

私も授業を見せてもらう機会があり、学級担任の先生とALTの先生が入られている授業があったのですが、発音はALTの方がされて、低学年だと分かりにくいところがあるので、担任の先生が日本語で補助され、子どもたちが積極的に頑張っている様子が見られました。その頃には、小学校の子でも英語検定5級を取る子が多かったような気がします。とにかく興味を持つというのが一番だと思うので、ALTの方に隔週でも来ていただき、子どもたちが外国の人と触れ合うことに抵抗がなくなるというのが一番だと思います。英語を学ぶということが、意思を疎通させるというのが一番の目的であるとすれば、いろいろな人と話せる、意思が通じて一緒に仕事ができるなど、将来的にはそうなれば良いのであり、ネイティブな人とぴったり同じ発音である必要はないと思います。こういったことは、ALTの先生の実力によってかなり違うと思うので、研修を受けることで先生のレベルが一定に保てるという意味では、民間から派遣されるというのは必要なかと思っています。

教育指導課主幹：長浜市では、よりグローバルな人材育成という視点から、英語圏に限らずALTの任用をしております。今現在はアメリカ、フィリピン、イギリス、メキシコ、4か国から来られているALTが派遣されております。確かに、第2言語として英語を話しているALTもいるため、少し発音が違うというところもありますが、そういった方もいるということで、また新しい価値観を子どもたちに育むことができているのではないかと考えております。

教育長：オンライン等で海外の方と子どもたちがつながり、色々話せるといったプログラムはありますか。授業の中でこういったものを取り入れていますか。

教育指導課主幹：現在、オンラインでつなぐということは学校では行っていませんが、11月に行う英語デイキャンプの中で、海外とつないで子どもたちに英会話の体験をしてもらうことを計画しております。学校施設から行うということも候補として上がっていますので、こういった取組から学校にも広げていければと思っています。

その他に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり決定された。

6. 協議・報告事項

(1) 長浜市民間認可保育所及び認定こども園副食費補助金（新型コロナウイルス対策事業分）交付要綱の制定について
幼児課長から資料に基づき説明があった。

(2) 一麦保育園移管先法人の募集について
幼児課長から資料に基づき説明があった。

前田委員：園児数はどうなりますか。園児数の確保はできていくのですか。

幼児課長：湖北エリアについては年々人口が減少しており、それに伴い子どもの数も減少している状況です。一麦保育園に関しても、平成27年は66人の園児がいましたが、令和4年度は47人となり減少しています。

しかしながら、旧の湖北町エリアは、旧の湖北町時代から民間園が参入されており、小谷エリアには小谷認定こども園、速水エリアには速水保育園があり、市が運営している園として、朝日エリアには一麦保育園、速水エリアには湖北幼稚園があります。

現在、狭いエリアに4園があるという状況ですので、このエリアにそれだけの園が必要なのかというところは議論の中でもありましたが、現在、50人程度の園児がいる中で、過去には朝日幼稚園を閉鎖して湖北幼稚園に統合したという経緯があり、地元の方からこのエリアに一麦保育園を残してほしいという強い要望もありましたので、民間の活力を活用するという事で、進めさせていただくことになりました。高月エリアに住宅が増えてきており、たかつき認定こども園の園児数が定員以上になっているという状況もあるため、そちらから来ていただくことを期待すると、認定こども園とすることで、湖北幼稚園に行っておられる朝日エリアの子を戻すということでの園児数の確保を考えています。また、速水には園が2つありますので、公立園との統合も視野に入れながら、今回はこのような形で進めさせていただこうと考えております。

(3) 令和4年長浜市議会6月定例会一般質問答弁要旨について

松宮委員：議員さんは、どういった分野に興味を持っておられましたか。

教育長：分野的には、まずは学力向上です。教育大改革と言うが、どういったことを考えているのかということでした。私としては、改善の積み重ねが改革につながっていくということでお話ししましたが、議員さんによっては、大改革と言うのであれば、もっとすごいことが必要ではないのかというようなことがありました。学校や園、子どもたちについて一気に大きく何かを変えるということは難しいため、特に学力の問題についての改善が必要だということをお話しさせていただきました。

最近のことでいいますと、例えば中学校の部活動の外部委託について、今から始めて3年後に土・日は外部の者が部活動を持つことができるのかということがありました。また、保育園のおむつの持ち帰りの問題もあり、現在、おむつを保護者に持ち帰ってもらっていますが、市で処理できないのかということがありました。

前田委員：地道に少しずつ変えていく、戦略を持って変えていく。その戦略とは、ICTを使った学力向上施策を授業改善とあわせてやっていくことであるという明確なビジョンを表明されていますので、地道にやっていくことにより、将来的に変わったというのが大改革であるということの良いのではないかと考えています。

現場の先生たちが一糸乱れず、一生懸命この方向でやろうというような機運が盛り上がってくれば、より改革が進むと思うので、そういったスタンスで議会でも答弁しておられたのは大変良かったと思います。

ただし、小中一貫教育についての成果と課題についての質問が出てきましたが、本当に小中一貫教育に効果があるのかという検証については、もう少ししていかなければならないと思っています。これだけ過疎化していく中で、どういったふうに進めていくべきかというのは大きな問題だと思っています。

小中一貫教育の目玉はカリキュラム改革であり、どのようにカリキュラムを構成していき、子どもたちにどういった力をつけるのかということです。そのカリキュラムを変えていかなければ意味がないので、教育課程をどのように変えていくのか、今やっていることがこれで良いのかを検証しながら、そのあたりにメスを入れていかなければ、あまり効果が上がるものになっていかないのではないかと考えています。

部活については、地域での指導者の確保というのはなかなか難しいと思います。そこに壁があると思うので、そのあたりをどのようにシステム化していくのか、どこにメスを入れてやっていくのかということ、近々にやっていかなければならないと思いますが、なかなか難しい問題であると感じました。

すこやか教育推進課長：長浜市では子どもたちがやりたい部活がないという状況があり、団体スポーツができないという子どもたちもいますので、関係各課と一緒に、子どもたちにとってよりよい方法を、国の情報などを集めながら長浜市独自の部活動の改革ができないか検討を進めているところです。

地域への移行となると、地元の受皿がしっかりとできているかというところがあります。子どもたちを指導していただける地域の指導者の方や団体になりますが、今回を機会に地域の団体を育てながら、うまくできないかと関係課と一緒に進めているところです。まだまだこれといった成果が出てこないところがありますが、順次進めているところです。

松宮委員：以前研修に行った速水小学校では、担任が全教科を教えるのではなく、科目によって先生が専門に教えているということでしたが、他の小学校ではされていないのですか。

教育指導課長：他の学校でも専科として加配があり、高学年を中心に進めているところです。

教育長：どういった教科がありますか。

教育指導課長：基本的に多いのは、理科、算数、体育です。

松宮委員：教科を専門に教えると、先生の準備が楽になるというのがあると思います。授業の効率化をどのように図っていくのかが、教師を確保する一番大切なことだと思います。昔に比べると、保護者への対応等もより複雑化して大変になってきていますし、先生自身に対する負担という部分でも、専科指導をすることにより、軽減されていくのではないかと思いますので、ぜひ少しでも広げていって

ほしいと思います。

教育長：人材育成という面と働き方改革、それから授業改善を、うまくバランスを考えながらやっていかないと、今後に影響が出てくるのではないかと思います。

7. その他

8. 閉会

教育長から閉会宣言があった。